

第10回(昭和53年度)日本映画照明技術者協会 照明技術賞

劇映画部門 技術賞 愛の亡霊 担当 岡本健一(フリー)
 劇映画部門 努力賞 翼は心につけて 担当 久米成男(映放)
 CF部門 該当作品なし
 TV映画部門 該当作品なし
 特撮映画部門 該当作品なし
 悲劇映画部門 該当作品なし

劇映画部門 技術賞「愛の亡霊」 大島プロ作品



本学会員 岡本健一
大正3年生

主な作品、「羅生門」「雨月物語」「山椒大夫」などの作品は、黒沢、溝口両監督の作品が有名、大島渚監督「愛のコリダ」の前作に続き「愛の亡霊」を担当した。

選定理由:「愛の亡霊」の照明は、日本家屋の特有ある素材の難しい作品であるのに対し、よく理解した奇を以った配光・凡を仕立てた彩光を多種に亘って変化ある意識的なライティングを試みたにも拘らず一定したトーンを統一し作品内容を照明により劇的に盛り上げた技法は照明技術賞に値するものと認める。

照明賞受賞に際して 岡本健一

僕は、長いことこの仕事をしていますが、ロケーションで、あないにライトを使うのは初めてです。

ファーストシーンの車の走りだけ使いませんでした。河原でのNシーンですが、夕景狙いで、ディテールが出るか出ないかを撮ったのですが、あないな所は、ライトをいくらあててもきりがありません。宮島さんは、スモークを焚いてみようと言ったのですが、河原でのスモークは、風があつたら人手が足らなくなるし……偶然その日は風もなく、スモークに逆をあてて見た目にライトをあてた様にしたのでは、おもしろくないので……。

我々の見せ場は、ロングですね、チョウチンを下げて出て来る所、わたしはいゝ感じでテイティングしたつもりです。

賞を取る時の仕事は、力んでした作品は少ないと違いまっか。私は、ジワーリとした感じでした仕事が好きです。

岡本さんとは編集部高島、村上で話を聞きその一部を受賞の言葉としました。

劇映画部門 努力賞「翼は心につけて」 翼プロ作品



映放支部 久米成男
昭和3年2月2日生

東京出身、1953年からフリー、現在に至る。主な作品、記録映画一町の政治(岩波)、古代の美(岩波)、天平美術(三井)、ロダン(日映)、手工芸品・その美術(桜・映画)、ベネチカイトリアで受賞。短篇劇一ある若者の出奔(演出・下村勉二)、TV映画一アジアの曙(演出・大島渚)、劇映画一薔薇の葬列(演出・松本俊夫)

その他、アテネフランセ・文化センターなどで映画照明の講師をつとめる。

選定理由:「翼は心につけて」の照明は、オールロケによる器材や時間等種々なる悪条件の制約のもとで綿密なる照明設計をたて、ややもすると沈みがちな作品のモチーフを常に安定した明度な画調に仕立て主人公の屈折を助けるライティングにより作品内容を高揚した配光技法は努力賞に値すると認める。

感想

もう少し丁寧に、と思うところは多々あるけれども、自分としては、かなり自分自身に調和した仕事やれたと言う充足感はありません。

無論、評価の問題は別でしょう。今回の結果については、勝手な想像ですが、批判よりも、理解につとめてくれたと言うことでしょうか。

数年前、腹膜炎の手術で2回、のべ半年以上の入院、通院生活の体験で、それまでは臭いだけでも生理的に駄目だった病院が、馴染みの空間になっていたことが幸運でした。それに受験生をもつ親としての体験、障害をもつ子供たちとの交渉が過去にあったことも、作品世界をより自分のものにする上で、幸いしました。

記録やぶりの猛暑つづきの日々、冷房もなくむし風呂と化したロケセットの中で、真冬の場面を撮っていた光景が、そしてスタッフ、キャスト、ひとり一人の顔が、なつかしく思いだされます。